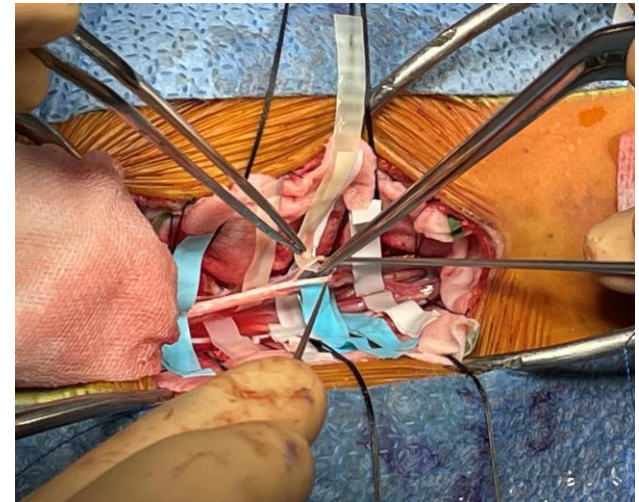


痙縮治療におけるSDRの適応

静岡県立こども病院脳神経外科
石崎竜司

選択的後根切断術（SDR）

痙性対麻痺などの下肢中心の痙縮を軽減することで
下肢機能（歩行）を改善することを目的に行われる
術中誘発筋電図で異常な神経を選択して感覚神経
である後根の一部を切離することで
痙縮の緩和を図る



SDR手術適応

- 両下肢中心の痙縮を呈する痙直型脳性麻痺の G M F C S I ～ III
- 純粹な痙縮を呈する病態で、随意性が良好であり、十分な抗重力筋力がある
- 筋短縮や関節拘縮がない
- 良好な心理社会状態である 3 ～ 7 歳児

(痙縮をうまく利用して筋力を補い 歩行している症例は慎重に)

適応かどうか悩まれる症例についても、ご希望があれば
静岡県立こども病院脳神経外科へのご紹介をお願い
いたします

整形外科、リハビリ（PT）とともに診察させていただきます

よろしくお願いします



沖縄県立こども医療センター 小児整形外科
金城健先生に

10月7日（火）

に院内講演会でSDRについてご講演いただく
予定です。

（それまでにご紹介いただいた症例については
当日に診察をお願いする予定です）

ハイブリッドで行い、ご質問もお受けしますので
是非参加をお願いいたします。

